

高等学校 公民科

公 共

学 習 プ リ ン ト

高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）準拠

— 解 答 入 り 版 —

【 】の中が答えです。赤い下じきを当てると消えるので、
買ってすぐ、そのまま暗記チェックに使えます。
「発展」のついた内容は、定期テストの標準をこえるやや高度な内容です。
余裕があるときに取り組めば十分です。

目次

■ A 公共の扉

- 第1章 青年期と自己形成
- 第2章 社会の中で生きる私たち
- 第3章 幸福を重視する考え方
- 第4章 義務と正義を重視する考え方
- 第5章 生命倫理と環境倫理
- 第6章 公共的な空間における基本的原理
- 第7章 日本国憲法の基本原理

■ B 自立した主体として よりよい社会の形成に 参画する私たち

- 第8章 法や規範の意義と役割
- 第9章 契約と消費者の権利・責任
- 第10章 基本的人権の保障
- 第11章 裁判のしくみと司法参加
- 第12章 国会と内閣のしくみ
- 第13章 選挙と政治参加・世論
- 第14章 地方自治
- 第15章 国家主権と領土
- 第16章 日本の安全保障と防衛
- 第17章 国際社会のしくみと日本の役割
- 第18章 職業選択と産業構造の変化
- 第19章 雇用と労働問題
- 第20章 市場経済の機能と限界
- 第21章 金融の働き
- 第22章 財政と租税の役割
- 第23章 少子高齢社会と社会保障
- 第24章 経済のグローバル化と貧困・格差

■ C 持続可能な社会づくりの 主体となる私たち

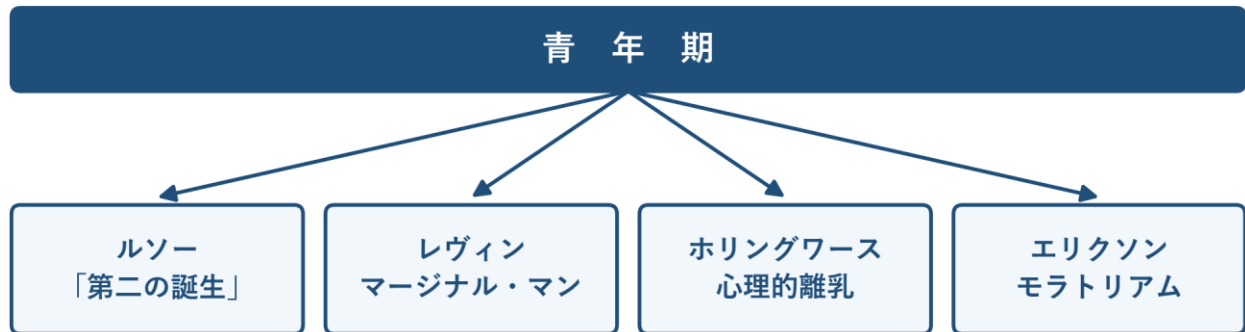
- 第25章 持続可能な社会をつくる

■ 巻末資料

- 巻末資料① 日本国憲法 重要条文チェック
- 巻末資料② 公共 用語チェック 150

第1章 青年期と自己形成

青年期をとらえる四つの見方



※いずれも「子どもからおとなへ移る時期の不安定さ」をそれぞれの角度から言い表したものの。

■ 1 青年期とはどんな時期か

- ・ **【青年期】** …子どもからおとなへ移り変わる時期。からだの変化である **【第二次性徴】** が現れるころから、社会的に自立するまでの時期をさす。
- ・ 現代では進学や就職の時期が遅くなり、青年期は **【長期化】** する傾向にある。
- ・ **【ルソー】** …著書『**【エミール】**』で、青年期を「**【第二の誕生】**」と呼んだ。「われわれは、いわば二回この世に生まれる」と述べている。
- ・ **【レヴィン】** …子どもの集団にもおとなの集団にも属しきらない青年を **【マージナル・マン (境界人・周辺人)】** と呼んだ。
- ・ **【ホリングワース】** …親の保護から心理的に離れて自立していく過程を **【心理的離乳】** と呼んだ。

※青年期には、親や社会の価値観をいったん疑い、自分で考え直そうとする **【第二反抗期】** がみられることがある。

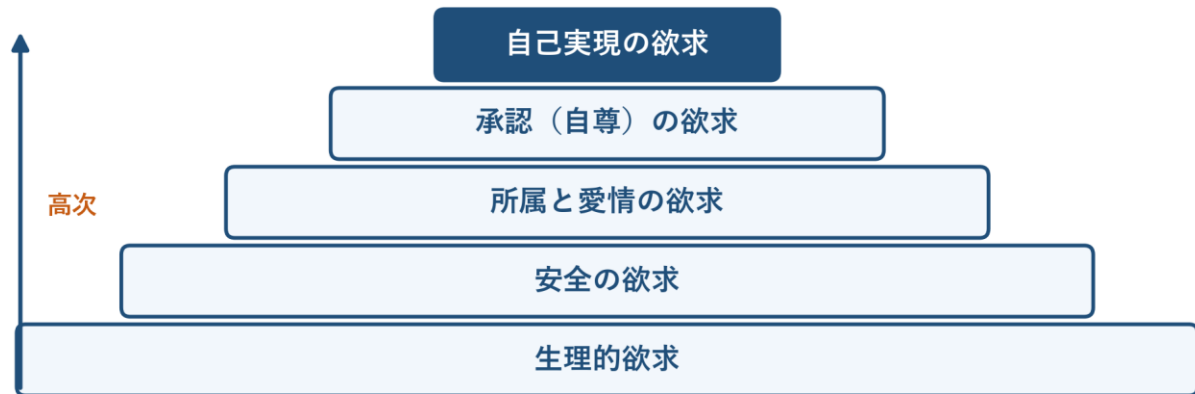
■ 2 青年期の課題

- ・ **【エリクソン】** …人の一生を八つの段階に分け、それぞれに達成すべき課題があるとした。
- ・ エリクソンは、青年期の課題を **【アイデンティティ (自我同一性)】** の確立とした。「自分は自分である」という一貫した感覚のことである。
- ・ アイデンティティが確立できず、自分がわからなくなる状態を **【アイデンティティの拡散】** という。
- ・ 青年期は、社会的な責任や義務が一時的に猶予される **【モラトリアム (心理社会的モラトリアム)】** の時期でもある。この間に、さまざまな役割を試することができる。
- ・ **【ハヴィガースト】** …人生の各段階に達成すべき **【発達課題】** があるとした。青年期の課題として、親からの情緒的な独立や、職業の選択と準備などをあげている。

発展 エリクソンは、モラトリアムを「猶予」であると同時に自己を探すための積極的な時間ととらえた。これに対し、精神科医の **【小此木啓吾】** は、大人になることを引き延ばし続ける現代の若者像を「**【モラトリアム人間】**」と呼んで論じた。

■ 3 欲求と適応

マズローの欲求階層



※下位の欲求がある程度満たされると、より上位の欲求が現れるとされる。下の四つは不足を満たす欲求、最上位は成長をめざす欲求である。

- ・【マズロー】…人間の欲求を五つの階層でとらえた。低い段階の欲求が満たされると、より高い段階の欲求が現れるとした。
- ・階層は低いものから、【生理的欲求】→安全の欲求→所属と愛情の欲求→承認（自尊）の欲求→【自己実現の欲求】の順である。
- ・【欲求不満（フラストレーション）】…欲求が満たされずに生じる不快な心の状態。
- ・【葛藤（コンフリクト）】…二つ以上の欲求が同時にあり、どちらを選ぶか決められない状態。レヴィンは接近—接近型、回避—回避型、接近—回避型の三つに分けた。
- ・【防衛機制】…欲求不満から心を守ろうとする、無意識のはたらき。精神分析を始めた【フロイト】らによって明らかにされた。

おもな防衛機制

名称	内 容	例
抑圧	苦しい記憶や欲求を意識から締め出す	失敗をいつのまにか忘れる
合理化	もっともらしい理由をつけて正当化する	「あのぶどうはすっぱい」
同一視	他人の特徴を自分のものと感じる	憧れの人のまねをする
投射（投影）	自分の感情を相手のものと思いこむ	自分が嫌いなのに「嫌われている」
反動形成	本心と反対の態度をとる	好きな人に意地悪をする
昇華	欲求を価値ある活動に向けかえる	攻撃心をスポーツに向ける

※いずれも無意識のはたらきであり、だれにでも起こる。昇華は社会的に価値のある形に置きかえる点で建設的とされる。

- ・おもな防衛機制…【抑圧】（苦しい記憶を意識から締め出す）、【合理化】（もっともらしい理由をつける）、同一視、【投射（投影）】（自分の感情を相手のものと思いこむ）、反動形成、逃避、退行。
- ・【昇華】…満たされない欲求を、スポーツや芸術など社会的に価値のある活動に向けかえること。防衛機制の中でも建設的なはたらきとされる。